

新フェローの紹介

飯田 耕司 (いいた こうじ) 氏

昭和 12 年 4 月 13 日生れ

〔現住所〕神奈川県横浜市栄区

〔学歴〕昭和 36 年 大阪府立大学工学部船舶工学科卒業
昭和 44 年 防衛大学校理工学研究科 OR 専門卒業
昭和 63 年 工学博士 (大阪大学)



〔職歴〕

昭和 36 年 日立造船(株)因島工場造船設計課入社

昭和 39 年 海上自衛隊入隊

昭和 53 年 防衛大学校電気情報学群情報工学科教授、現在に至る

〔OR 学会関係〕探索理論研究部会幹事、研究普及幹事 昭和 48~50 年度、

〔著書等〕Studies on the Optimal Search Plan (Springer-Verlag, 1992) 他 4 冊、事典等 (共著) 3 冊、査読付き論文 45 編、防衛関係又は部内研究誌の論文・解説等 68 編、発表多数

飯田氏は、昭和 39 年に技術職種 of 制服自衛官として海上自衛隊に入隊後一貫して防衛問題の OR 分析業務に携わってこられました。防衛大学校研修の後は、防衛庁海上幕僚監部において中期防衛力整備計画の OR・SA に従事され、海上航空部隊総司令部の OR セクションでは、「対潜戦の科学化」をモットーに対潜水艦作戦の戦術 OR を推進されました。防衛大学校の OR 講座教官に転出後は、自衛隊幹部要員の教育と理論研究に従事されています。研究分野としては、軍事 OR 分野の理論研究、特に探索理論を研究されており、その業績により防衛技術論文賞など多くの賞を受賞されています。

大内 東 (おおうち あずま) 氏

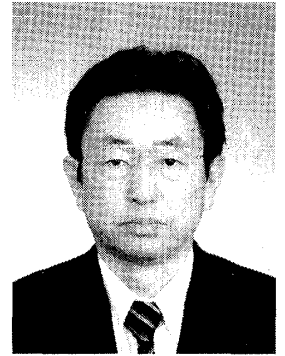
昭和 20 年 8 月 19 日生れ

〔現住所〕北海道札幌市西区

〔学歴〕昭和 49 年 北海道大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 49 年 北海道大学工学部電気工学科助手、同講師・助教授を経て



平成元年 同大学院工学研究科システム情報工学専攻教授

〔OR 学会関係〕北海道支部運営委員 昭和 50 年度~平成 8 年度、北海道支部副支部長 平成 9~10 年度、北海道支部長 平成 11~12 年度、研究普及委員 平成 11~12 年度、評議員 平成 12 年度~現在、40 周年特別研究プロジェクト特設 G1 部会主査 平成 12 年度~現在、現在理事 (無任所)、その他研究部会主査、研究発表会実行委員等を歴任

〔著書等〕学術論文、講演、研究発表多数

大内氏は、OR とシステムと情報を融合した研究分野において業績をあげてこられ、最近、複雑調和系工学の観点から OR の実践的研究をテーマに掲げ、医療システムや観光産業における情報技術の活用など幅広く活動されています。また、長年にわたり支部運営委員や研究部会主査、4 度の北海道支部開催研究発表会の実行委員として北海道支部の運営に尽力され、平成 11~12 年度には北海道支部独自でオーストラリア・クイーンズランド支部とのワークショップを開催し大きな成功を収められました。本学会においては、支部長、研究普及委員、評議員を歴任され、本学会の発展に貢献されています。

木瀬 洋 (きせ ひろし) 氏

昭和 17 年 5 月 15 日生れ

〔現住所〕京都府京都市伏見区

〔学歴〕昭和 43 年 京都工芸繊維大学工芸学研究科機械工学専攻修了

昭和 56 年 工学博士 (京都大学)

〔職歴〕

昭和 43 年 京都工芸繊維大学工芸学部助手

昭和 56 年 同助教授

昭和 63 年～平成元年 米国テキサス大学及びカナダ国サイモンフレーザ大学訪問学者

平成 3 年 京都工芸繊維大学工芸学部教授, 現在に至る

平成 9 年 大阪大学工学部非常勤講師併任, 現在に至る

〔OR 学会関係〕評議員 昭和 59～62 年度・平成 10～11 年度, 支部運営委員 昭和 61～63 年度・平成 2～11 年度, その他関西支部研究会主査, 支部監事等を歴任

〔著書等〕Robotics, Mechatronics and Manufacturing Systems (分担執筆, North Holland, 1993), Advances in Production Management Systems (分担執筆, Chapman & Hall, 1998), 経営科学 OR 用語大辞典 (共訳, 朝倉書店, 1999), OR 事典 2000 (分担執筆, OR 学会編, 2000), 査読付き論文約 50 編, 解説約 20 編, 発表多数

木瀬氏は, 30 年にわたりスケジューリングを主要なテーマとして研究されてきました。70 年代初頭に台頭してきた NP 完全性に基づいた計算複雑さの理論を国内で早くからスケジューリング問題に適用され, また, 今日多くの研究者が関心を持っているロボティックスケジューリング問題の計算複雑さを世界的に最も早く取り上げた研究者の一人でもあります。その成果は国内ばかりでなく, 海外でも論文として数多く発表され, また, 海外論文誌のゲストエディター, 査読委員, 国際会議の委員を務められるなど, 国際的にも活躍されています。本学会においては, 評議員, 関西支部運営委員, 支部研究会主査を歴任されるなど, 本学会の発展に貢献されています。



高橋 豊 (たかはし ゆたか) 氏

昭和 26 年 4 月 10 日生れ

〔現住所〕滋賀県大津市青山

〔学歴〕昭和 50 年 京都大学工学部数理工学科卒業

昭和 55 年 同大学院工学研究科博士課程研究指導認定退学

昭和 57 年 工学博士 (京都大学)

〔職歴〕

昭和 55 年 京都大学工学部数理工学教室助手

平成元年 同助教授

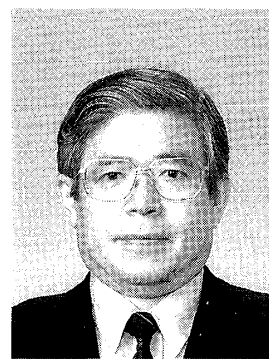
平成 8 年 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授

平成 11 年 京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻教授

この間, 京都大学, 奈良先端科学技術大学院大学, 奈良女子大学, 立命館大学などの非常勤講師を歴任

〔著書等〕Performance of Distributed Systems and Integrated Communication Networks (共編著, North-Holland, 1992), Modelling and Performance Evaluation of ATM Technology (共編著, North-Holland, 1993), Local and Metropolitan Communication Systems vol.3 (共編著, Chapman & Halls, 1995), システム工学 (共著, コロナ社, 1996), Performance and Management of Complex Communication Networks (共編著, Chapman & Halls, 1998), Performance and QoS of Next Generation Networking (共編著, Springer, 2000) 他, 査読付き論文 94 編, その他解説文, 学会講演多数

高橋氏は, システムのモデル化と性能評価, オペレーションズ・リサーチ, 特に待ち行列理論, トラヒック理論に関して国内外で幅広い研究活動をされており, その研究業績は極めて広範囲に互っています。また, 欧米の論文誌のエディターや 50 以上の国際会議でオーガナイザー, プログラム委員長, アジア地区代表, クラスタ委員長, プログラム委員などの要職を歴任され, 郵政省の認可法人である通信・放送機構の直轄研究プロジェクトである「多段接続された CATV 網による通信・放送統合技術に関する研究開発」プロジェクトの総括責任者も務められました。



中野 一夫 (なかの かずお) 氏

昭和 22 年 10 月 22 日生れ

〔現住所〕 東京都中野区鷺宮

〔学歴〕 昭和 46 年 東京工業大学経営工学科卒業

〔職歴〕

昭和 46 年 (株)構造計画研究所入社

昭和 63 年 同数理技術部長

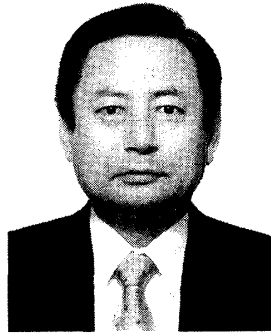
平成 3 年 同取締役数理技術部長、現在に至る

この間、技術士(情報工学部門)取得、東京工業大学大学院情報理工学研究科非常勤講師を歴任

〔OR 学会関係〕 第 4 回事例研究奨励賞 昭和 59 年度、第 8 回事例研究奨励賞 昭和 63 年度、研究普及委員 昭和 59~60 年度、理事(研究普及)平成 6~7 年度、理事(庶務)平成 10~11 年度、その他 40 周年記念事業幹事、財政問題検討委員等を歴任、現在評議員、表彰委員、40 周年「統合オペレーション」特別研究プロジェクト幹事

〔著書等〕 多目標問題解決の理論と実例(共訳)、コンピュータによる確率設計法〈上・下〉(共訳)、SLAM II によるシステム・シミュレーション入門〈改訂版〉(共著)

中野氏は、長年にわたり構造計画研究所の OR 実施部門の責任者として活躍されてきました。同社の OR 関連プロジェクトは情報通信・製造・建設・電力/ガス・官公庁と多くの分野をカバーし、その手法もリスクアナリシス、多属性効用理論、離散系シミュレーション、最適化、スケジューリングと多岐にわたり、その実績を評価され同社は第 16 回 OR 学会実施賞を受賞しております。また、同氏は開発者の故 Alan B. Pritsker 博士と共に汎用シミュレーションツール SLAM(最新バージョンは Visual SLAN)を我国のシミュレーション研究、教育の場に普及させた実績も高く評価されています。本学会においては、理事、評議員、各種委員、創立 40 周年記念事業の各種幹事等を歴任され、本学会の発展に貢献されています。



矢部 博 (やべ ひろし) 氏

昭和 30 年 1 月 5 日生れ

〔現住所〕 神奈川県藤沢市片瀬山

〔学歴〕 昭和 52 年 東京理科大学理学部応用数学科卒業
昭和 57 年 同大学院理学研究科数学専攻博士課程修了(理学博士)

〔職歴〕

昭和 57 年 東京理科大学理学部応用数学科助手

昭和 62 年 同工学部教養 講師

平成 7 年 同工学部経営工学科助教授

平成 9 年 同理学部応用数学科助教授

この間、アメリカ合衆国 Rice 大学数理科学訪問研究員

〔OR 学会関係〕 第 3 回事例研究奨励賞ソフトウェア部門 昭和 63 年度、機関誌編集委員 昭和 61 年度~平成 2 年度、研究発表会実行委員 昭和 63 年度・平成元年度、OR 事例集 1991 編集委員 平成 2~3 年度、第 3 回 RAMP シンポジウム実行委員 平成 3 年度、RAMP シンポジウム運営委員 平成 6 年度~現在

〔著書等〕 パソコン FORTRAN 版非線形最適化プログラミング(共著、日刊工業新聞社、1991)、現代数値計算法(共著、オーム社、1994)、最適化ハンドブック(共訳、朝倉書店、1995)、非線形計画法(共著、朝倉書店、1999)その他事典等分担執筆 3 冊、論文 24 編、発表・講演多数

矢部氏は、長年にわたり非線形最適化問題に対する数値解法の研究に携わってこられ、とりわけ、無制約最小化問題や制約条件付き最小化問題を解くためのニュートン法に基づいた数値解法の収束性について深く研究されています。また、理論的な研究だけでなく、実用的なアルゴリズムの開発及びその実装にも関心を寄せ、昭和 63 年度には OR 学会事例研究奨励賞ソフトウェア部門賞を受賞されました。本学会においては、各種委員を歴任され、特に RAMP シンポジウムの運営に尽力されるなど、本学会の発展に貢献されています。



山口 俊和 (やまぐち としかず) 氏

昭和 23 年 8 月 8 日生れ

〔現住所〕東京都台東区浅草橋

〔学歴〕昭和 46 年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
昭和 51 年 同大学院工学研究科博士課程管理工学専攻単位取得退学

昭和 52 年 工学博士 (慶應義塾大学)

〔職歴〕

昭和 51 年 慶應義塾大学工学部管理工学科助手

昭和 52 年 東京理科大学工学部第一部経営工学科専任講師

平成 5 年 同教授

〔OR 学会関係〕会計幹事 昭和 52~58 年度, 平成 10~11 年度, 理事 (会計) 平成 8~9 年度, その他 40 周年記念事業実行委員, 財政問題検討委員, OR 事典編集委員等を歴任

〔著書等〕経済性分析 (共著, 日本規格協会, 1979),



経営の多目標計画 (共著, 森北出版, 1987), OR ワークブック (共著, 日科技連出版社, 1983), アルゴリズム辞典 (共著, 共立出版, 1994), 経営工学ハンドブック (共著, 丸善, 1994), OR のためのプログラミング技法 (共訳, 日刊工業新聞社, 1980), 査読付き論文 41 編, その他論文・学会発表多数

山口氏は, 目標計画法を発展させた目標ベクトル法を開発し, プロジェクト選択問題, 事業ポートフォリオ戦略計画, 財務計画, 水資源配分問題に適用し, 実践的な計画立案および意思決定のための方法論を確立されました。さらに, ファジ理論を経営意思決定モデルに適用し, ファジ解を考慮した対話型多目標計画法, 係数間の関係を考慮した多目標計画法などを開発し, 生産計画, 輸送計画などに応用されています。また, AHP の分野では, 対話形式による不完全一対比較行列からのウェイト計算法, DEA の分野では, 区間 AHP を用いた領域限定法, CFA を用いた対数型モデル, 出力値にファジ数を用いたモデル, 新規出店モデル, 経営資源再配分モデルなどを提案されています。本学会においては, 各種委員, 理事を歴任され, 本学会の発展に貢献されています。